

廣本作和名和多之毛利、一云和太利毛利。按、和多之毛利見古今集伊勢物語空物語、和多理母理、見萬葉集、則二語雖兩通、然本書居處部、濟訓和多利、則和多利毛利爲古、廣本互誤。今本仁德紀無傍訓、孝德紀傍訓和多之毛利、亦非、當據此所引私記改正。

〔類聚名義抄五〕渡子ワタリモリ

〔伊呂波字類抄人倫〕渡子ワタリモリ

〔伊呂波字類抄人倫〕渡子ワタリモリ、渡守ワタシモリ、已上同。

〔運步色葉集和渡守〕ワタシモリ

〔書言字考節用集人倫〕津吏ワタシモリ、涉人ワタシモリ、渡守ワタシモリ

〔倭訓采前編四十二〕わたしもり 源氏伊勢物語に見ゆ、涉人をいふ、日本紀、倭名抄に渡子をよめり、萬葉集にわたりもりと見ゆ。

〔藻鹽草五〕水邊渡

ひろせ河わたりのおさ。

〔源氏物語橋姫四五〕あやしき舟どもに柴かりつみをのくなにとなき世のいとなみどもに行かふさまどものはかなき水のうへにうかびたるだれも思へばおなじことなるよのつねなさなり、われ蒸ハは、うかばず、たまのうてなに、亥づけき身と思ふべき世かはと、思つゝけらる、硯めしてあなたにきこえ給、

はし姫の心をくみてたかせさすさほの亥づくに袖ぞぬれぬる、ながめ給らんかしとて、殿の人にもたせたまへり、さむげにいら、ぎたるかほしてもて參る、御返かみのかなど、おぼろげならんははづかしげなるを、ときをこそはかゝるをりはとて、
さしかへる宇治の川おさあさ夕のの雲や袖をくだしはつらん、身さへうきてといとおかしげにかき給へり、